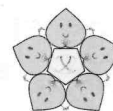




# 桃五だより



No.567

(9月号)

杉並区立桃井第五小学校

<http://www.suginami-school.ed.jp/momo5shou/>

2018. 8. 31

## 変えること、変えないこと

校長 川田 忠

予感がありました。終業式の前日に行った5年生の着衣泳の時間、プールサイドの高温は尋常ではありませんでした。プールサイド床面の温度はかなり高く、床面に水が流れているにもかかわらず、足裏の火傷が心配な程でした。子供たちが着衣泳の学習をしている間にプールサイドの水まきを徹底的に行いましたが、強い日差しによってあっという間に床面が熱くなりました。それは、水泳指導に長年携わっている者にとっても、初めてのことでした。

夏休みといえば、プールで思いっきり水と親しむのが子供たちにとって最高の時間のはずです。それをやめなくてはいけない。子供たちから夏を奪うような、そんな思いをもちながら、現実の対応として前期水泳指導を中止としました。

「これからの学校は、どうあるべきか」を研究している人たちが、30年後の学校像をいろいろな角度から検討しています。その中で、自然現象の変化を確実に考慮しなければいけないと強く思いました。連日、40度に迫る気温になることや、集中豪雨等で大量の雨が降ることなど、ひと昔前にはなかったことです。高温や大雨の日があっても、それは今年のレベルとは明らかに違っていました。

この国で長い間描かれていた夏の風景が、変わっていくのかもしれない。学校生活の中で今までは当たり前に行っていたことも、変えていかなくてはならないことがあるかもしれない。そういう認識を深める夏となりました。そんな夏休みを終えて、子供たちが学校に戻ってきました。2学期の学校生活が始まります。

今学期は、1年で一番長い学期です。運動会や音楽会といった大きな行事が控えています。校外学習や縦割り遠足などもあり、子供たちにとっては1学期の学校生活を上回る楽しい時間になることを願っています。

自然現象を踏まえて今後変えていくことがある一方で、桃五の学校生活の中には変えないこと、変えてはいけない

いことがあると思っています。

それは、今学期も子供たちが楽しさを実感する学校生活を創るということです。子供たちが通いたい場所としての学校であり続けるということです。当たり前なのですが、教育の原点として常に「子供ありき」の学校生活を実現しなければと考えています。

今学期予定されている運動会という行事ひとつをとっても、教育の有り様が問われます。学校や指導者によっては、演技の出来を優先し、とにかく子供たちを叱咤して当日を迎えるといった姿があります。運動会という大きな行事を通して、保護者や地域の皆さんから認めてもらうために、いい出来栄えに仕上げたい。保護者や地域の皆さんがもつ、いい出来の演技を見てみたいという願いに応えたい。そういう心理が働くからです。

しかし、教育の場としての学校において最も大事にしたいのは、結果としての演技の出来栄えよりも、運動会という行事を子供自身が楽しんでいるかどうかだと考えます。子供たちの表情や姿から、「頑張っている私を見て」という思いや、一生懸命さ、真剣さ、本気さを感じられる子供に育てているかどうか、子供を育てる学校の運動会という行事に求めていくことなのでしょう。

運動会当日はもちろんのこと、運動会に至るまでの練習期間にも子供たちが生き生きと取り組む姿があり、運動会を心待ちにしている様子になることを追い求めていきたい。子供たちの気持ちを大切に、子供ありきの教育を実現し続ける桃五でなければと思います。

何かを変えるには、エネルギーがいります。難しさも伴います。逆に、良かれと思うことを変えずに続けることも、決して楽な道ではありません。桃五の教育として、変えること、変えないことをしっかりと見極めて、今学期を進めてまいります。保護者・地域の皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。

### 9月の生活指導目標 時間や時刻のきまりを守ろう

- 登下校の時刻を守ろう。
- アマリリスの音楽がなったら教室に入ろう。
- 朝会や集会におくれないようにしましょう。

2学期が始まり、桃五小に子どもたちの元気な声とともに、学校の規則正しい生活が戻ってきました。夏の疲れが出てきたり、生活リズムが乱れたりして体調を崩しやすくなる時期です。夏に培った力を発揮し、充実した学校生活を送るために、早寝早起きを心がけ、時間や時刻を守って生活していきましょう。